

「第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」からみた高齢者の社会参加・社会貢献  
—日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの特徴について—

一般財団法人長寿社会開発センター 国際長寿センター 上席調査役 大上真一

1. はじめに

本稿では「第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」から見えてくる日本とアメリカ、ドイツ、スウェーデンとの国際比較を通して、各国でどのような高齢者がどのようにボランティア活動を中心とした社会参加、社会貢献とかが関わっているのかを見ていく。

2. Q32 社会活動の参加状況

1) 各国の全般的な傾向

まず、図表1「Q32 あなたは福祉や環境を改善することなどを目的としたボランティア活動その他の社会活動を行っていますか。と性別と国のクロス表」の「15) 全く参加したことはない」との回答の合計の数値に注目する。そうすると、参加したことがないとする回答が多い日本(47.6%)およびドイツ(44.2%)のグループと、参加したことがないとする回答が少ないアメリカ(23.5%)およびスウェーデン(22.4%)の2つのグループに分けることができる。

図表1

Q32 あなたは福祉や環境を改善することなどを目的としたボランティア活動その他の社会活動を行っていますか。と F1 性別と国のクロス表

	日本		アメリカ		ドイツ		スウェーデン	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
	合計		合計		合計		合計	
01) 近隣の公園や通りなどの清掃等の美化活動	17.1%	13.0%	7.4%	6.8%	5.4%	1.4%	9.1%	9.1%
	14.8%		7.1%		3.2%		9.1%	
02) 地域行事、まちづくり活動	19.4%	11.3%	17.0%	20.2%	6.3%	4.2%	12.1%	16.8%
	15.0%		18.6%		5.2%		14.6%	
03) 環境保全・自然保護活動	4.8%	1.5%	4.5%	6.0%	6.6%	1.9%	9.7%	6.7%
	3.0%		5.3%		4.0%		8.1%	
04) 交通安全や防犯・防災に関する活動	7.9%	2.2%	3.1%	1.9%	1.8%	0.5%	4.1%	2.4%
	4.8%		2.5%		1.1%		3.2%	
05) 子供や青少年の健全育成に関する活動	7.3%	1.8%	9.0%	8.5%	3.6%	2.8%	6.5%	4.1%
	4.3%		8.8%		3.2%		5.2%	
06) 趣味やスポーツ、学習活動などの指導	5.6%	3.8%	5.1%	4.7%	5.2%	2.6%	16.4%	6.7%
	4.6%		4.9%		3.8%		11.2%	
07) 高齢者や障害者の話し相手や身の回りの世話	3.6%	4.0%	4.3%	9.7%	1.6%	5.6%	9.7%	16.2%
	3.8%		7.1%		3.9%		13.2%	
08) 医療機関や福祉施設等での手伝い・支援活動	1.2%	1.3%	2.7%	3.7%	1.4%	2.6%	3.4%	5.4%
	1.3%		3.2%		2.1%		4.5%	
09) 国際交流・国際支援活動	0.6%	0.3%	1.0%	1.0%	1.8%	1.8%	7.3%	10.1%
	0.5%		1.0%		1.8%		8.8%	
10) 消費者活動	0.2%	0.3%	3.1%	1.2%	0.9%	1.2%	0.4%	0.4%
	0.3%		2.1%		1.1%		0.4%	
11) 宗教・政治活動	2.6%	2.0%	28.7%	36.1%	10.7%	9.9%	11.2%	12.9%
	2.3%		32.5%		10.2%		12.1%	
12) 自分の趣味や技能などを活かした支援活動	4.8%	5.2%	12.9%	16.1%	13.8%	9.5%	13.4%	12.7%
	5.0%		14.6%		11.4%		13.0%	
13) その他	1.6%	2.0%	8.6%	8.9%	2.0%	4.2%	8.8%	13.1%
	1.8%		8.8%		3.3%		11.1%	
14) 以前は参加、今は参加していない	17.5%	20.5%	15.2%	20.0%	24.9%	24.0%	19.6%	19.2%
	19.1%		17.6%		24.4%		19.4%	
15) 全く参加したことがない	46.0%	48.9%	28.7%	18.6%	41.5%	46.4%	23.9%	21.1%
	47.6%		23.5%		44.2%		22.4%	

(「無回答」を省略)

## 2) 各国の活動内容

各国の活動内容を同じく図表 1 の合計の欄で見えていくと、日本の特徴としては「01) 近隣の公園や通りなどの清掃等の美化活動」(14.8%)へ参加率が比較的高く、「11) 宗教・政治活動」(2.3%)、「12) 自分の趣味や技能などを活かした支援活動」(5.0%)は少ない。アメリカは「11) 宗教・政治活動」(32.5%)が非常に多く「全く参加したことがない」を大きく下げる結果となっている。ドイツは「01) 近隣の公園や通りなどの清掃等の美化活動」(3.2%)、「02) 地域行事、まちづくり活動」(5.2%)の身近な地域への参加が少ない。スウェーデンは全般的に活発で、特に「06) 趣味やスポーツ、学習活動などの指導」(11.2%)が他国に比べて多いと言える。

ただし、これらの数値にのみによってボランティア活動が活発であると言い切ること、あるいは規模を推測することは難しい。文化や社会の仕組みの違いによって特定のボランティア活動に集中している場合、また「ボランティア」という言葉によって喚起されるイメージが国によって異なる場合も考えられる。例えば、アメリカにおいては「11) 宗教・政治活動」が非常に高い割合(32.5%)で、他の国よりも20ポイント以上も高くなっている。これは、宗教の役割が他の国とは異なっており、また他国と選挙のプロセスが異なっていることが影響している可能性も考えられる。

なお、本調査の「Q18 仕事を辞めた年齢」に「まだ仕事を辞めていない」との回答選択肢があり、日本は28.2%で就労者の割合が最も高い国である(アメリカ21.6%、ドイツ12.6%、スウェーデン16.4%)。そこで、就労がボランティア活動に影響しているか否かを見るために就労者のみに限って「Q32 15) 全く参加したことがない」割合を見るためにクロス集計をしてみると日本44.9%、アメリカ25.1%、ドイツ49.6%、スウェーデン21.3%であり、全調査対象者の場合の数値とくらべて特段の乖離はない。つまり、日本において就労している高齢者が多いことがボランティア活動に「参加したことがない」が多い原因であるとは考えにくい。

## 3) 性別にみた各国の活動内容

図表 1 の中の男性と女性の回答の違いをみると、日本で「15) 全く参加したことはない」は男性が46.0%で女性は48.9%である。つまり男性の方が多くこれまでにボランティアに参加している。その内訳をみると、「01) 近隣の公園や通りなどの清掃等の美化活動」(男性17.1%、女性13.0%)、「02) 地域行事、まちづくり活動」(男性19.4%、女性11.3%)、「03) 環境保全・自然保護活動」(男性4.8%、女性1.5%)、「04) 交通安全や防犯・防災に関する活動」(男性7.9%、女性2.2%)、「05) 子供や青少年の健全育成に関する活動」(男性7.3%、女性1.8%)で男性が顕著に多い。

アメリカでは「15) 全く参加したことはない」は男性28.7%、女性18.6%で女性の方がボランティア活動を多くしており、「11) 宗教・政治活動」(男性28.7%、女性36.1%)で顕著である。

ドイツでは「15) 全く参加したことはない」は男性41.5%、女性46.4%で男性の方がボランティア活動を多くしており、「03) 環境保全・自然保護活動」(男性6.6%、女性1.9%)で顕著である。

スウェーデンでは「15) 全く参加したことはない」は男性23.9%、女性21.1%で女性の方がボランティア活動を多くしている。男性が多く参加しているのは「06) 趣味やスポーツ、学習活動

などの指導」（男性 16.4%、女性 6.7%）、逆に女性が多く参加しているのは「07）高齢者や障害者の話し相手や身の回りの世話」（男性 9.7%、女性 16.2%）である。

#### 4）性別、年代別にみたボランティア活動への参加

以上の男女比の傾向はすべての年代を対象とした場合であった。次にボランティア参加の傾向を、さらに年代別の要素も含めて見ていく。

図表 2 でまず日本の数値を見ると、80 代（85 歳以上を含む）では男性の方が「まったく参加したことがない」が少ない（男性 39.8%、女性 56.8）が、60 代になると女性の方が「まったく参加したことがない」が少なくなる（男性 48.1%、女性 43.9%）。ドイツでは 80 代の男性は「まったく参加したことがない」が少ないが（男性 30.0%、女性 46.4）、他の年代は大きくは変わらない。

アメリカとスウェーデンでは全年代にわたって女性の方が「まったく参加したことがない」が少なく（全年代の合計をみると、アメリカは男性 28.7%で女性 18.6%、スウェーデンは男性 23.9%で女性 21.1%）で、女性が多く参加している傾向は全年代で変わらない。

図表 2

Q32 あなたは福祉や環境を改善することなどを目的としたボランティア活動その他の社会活動を行っていますか。と 15) 全く参加したことがない と F1 性別 と F2 年代と 国 のクロス表

	日本		アメリカ		ドイツ		スウェーデン	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
60代	48.1%	43.9%	31.4%	21.5%	41.1%	44.6%	23.3%	21.2%
70代	46.7%	50.5%	28.9%	15.9%	45.9%	45.4%	26.0%	23.7%
80代	39.8%	56.8%	22.3%	17.9%	30.0%	50.7%	20.8%	14.0%
合計	46.0%	48.9%	28.7%	18.6%	41.5%	46.4%	23.9%	21.1%

#### 5）学歴とボランティア活動への参加

図表 3 で学歴別にボランティア活動に全く参加したことがない高齢者の割合を見ると、いずれの国でも高等教育修了（中退）者は後期中等教育修了者、初等・前期中等教育修了者よりもその数値は少ない。ただし日本においては他国に比べてその差は非常に少ない。

たとえば、各国の初等・前期中等教育修了者と高等教育修了者のボランティア活動に全く参加したことがない割合の差は、日本は 9.3 ポイント（54.1%と 44.8%との差）であり、アメリカでは 17.4 ポイント（36.0%と 18.6%）、ドイツは 18.8 ポイント（49.1%と 30.3%）、スウェーデンは 12.9 ポイント（30.4%と 17.5%）である。

図表 3

Q32 あなたは福祉や環境を改善することなどを目的としたボランティア活動その他の社会活動を行っていますか。・15) 全く参加したことがない と F6 あなたが最後に卒業（中退）したのは、どんな学校でしたか。と 国 のクロス表

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
初等・前期中等教育（小学校・中学校）	54.1%	36.0%	49.1%	30.4%
後期中等教育（高等学校）	45.6%	28.3%	39.2%	26.1%
高等教育（短期大学・高専・専門学校（専修学校専門課程）・大学以上）	44.8%	18.6%	30.3%	17.5%

（選択肢「その他」「わからない」を省略）

## 6) 経済的な暮らしとボランティア活動への参加

図表 4 で経済的な暮らし別にボランティア活動に全く参加したことがない高齢者の割合を見ると、スウェーデンを除いて「困っていない」「あまり困っていない」層は「困っている」「少し困っている」層よりもその数値は少ない。スウェーデンでは逆の傾向がみられる。

たとえば、困っている人と困っていない人のボランティア活動に全く参加したことがない割合の差は、日本は 16.9 ポイント (61.5%と 44.6%との差) であり、アメリカでは 11.0 ポイント (33.3%と 22.3%)、ドイツは 14.3 ポイント (56.1%と 41.8%) と困っていない人の方が多くボランティア活動に参加している。逆にスウェーデンでは 4.3 ポイント (19.2%と 23.5%) の差で困っている人の方が多くボランティアに参加している。

図表 4

Q32 あなたは福祉や環境を改善することなどを目的としたボランティア活動その他の社会活動を行っていますか。 - 15) 全く参加したことがない と Q14 あなたは、経済的な意味で、日々の暮らしに困ることがありますか。 と 国 のクロス表

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
困っている	61.5%	33.3%	56.1%	19.2%
少し困っている	52.2%	28.1%	54.0%	20.8%
あまり困っていない	47.6%	19.6%	40.1%	21.0%
困っていない	44.6%	22.3%	41.8%	23.5%

(「無回答」を省略)

## 3. Q33 社会活動に参加していない理由

図表 5 でボランティア活動に現在参加していない理由を見ると、日本では他国に比べて「時間的・精神的ゆとりがない」が顕著に多く (日本 28.6%、アメリカ 17.9%、ドイツ 12.7%、スウェーデン 22.2%)、「健康上の理由、体力に自信がない」も多い (日本 27.5%、アメリカ 20.3%、ドイツ 24.1%、スウェーデン 22.0%)。日本を除く各国では「関心がない」(日本 14.0%、アメリカ 31.5%、ドイツ 36.7%、スウェーデン 16.5%)、「他にやりたいことがある」(日本 10.6%、アメリカ 25.2%、ドイツ 21.2%、スウェーデン 27.8%) が多く、またアメリカとドイツでは「やりたい活動が見つからない」(日本 9.2%、アメリカ 15.7%、ドイツ 14.7%、スウェーデン 9.6%) も多い。

図表 5

Q33 あなたがこのような社会活動に現在参加していない理由をお答え下さい。(〇はいくつでも)

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
関心がない	14.0%	31.5%	36.7%	16.5%
やりたい活動が見つからない	9.2%	15.7%	14.7%	9.6%
近くに適当な場が見つからない	7.6%	2.7%	10.4%	3.6%
一緒にやる仲間が見つからない	4.7%	5.8%	4.5%	3.6%
家族や周囲の理解が得にくい	0.1%	1.2%	0.3%	-
家族の介護をしている	4.7%	1.5%	10.4%	17.0%
これまでのキャリアにふさわしくない	0.7%	1.0%	0.1%	-
他にやりたいことがある	10.6%	25.2%	21.2%	27.8%
時間的・精神的ゆとりがない	28.6%	17.9%	12.7%	22.2%
健康上の理由、体力に自信がない	27.5%	20.3%	24.1%	22.0%
団体内での人間関係がわずらわしい	6.2%	1.9%	3.3%	1.2%
経済的余裕がない	3.0%	4.6%	5.1%	1.2%
その他	12.3%	10.2%	5.9%	12.0%

(選択肢「その他」「無回答」を省略)

なお、日本ではこのように「時間的・精神的ゆとりがない」が顕著に多いが、「2. Q32 社会活動の参加状況 2) 各国の活動内容」で触れたように就労がボランティア活動に影響している可能性は低い。

#### 4. Q5 健康について心がけていること

図表6で健康について心がけていることの中でボランティア活動にかかわる項目を見ると、日本では他国に比べて「地域の活動に参加する」が顕著に少ない（日本 19.6%、アメリカ 33.3%、ドイツ 39.1%、スウェーデン 33.4%）。

また、ボランティア活動に間接的に関係する項目として、「散歩や運動をする」（日本 53.7%、アメリカ 64.7%、ドイツ 54.3%、スウェーデン 81.1%）、「なるべく外出する」（日本 31.7%、アメリカ 55.4%、ドイツ 17.2%、スウェーデン 61.3%）において、アメリカとスウェーデンでの割合が高くなっている。

図表6 Q5 あなたは、日頃ご自分の健康についてどんなことを心がけていますか。（〇はいくつでも）				
	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
休養や睡眠を十分とる	59.6%	79.3%	74.1%	60.3%
規則正しい生活を送る	59.3%	55.4%	78.2%	64.6%
栄養のバランスがとれた食事をする	57.1%	61.6%	64.7%	73.5%
保健薬や強壮剤などを飲む	8.0%	15.4%	35.3%	13.8%
健康診断などを定期的に受ける	47.4%	71.6%	70.7%	40.4%
酒やタバコをひかえる	18.1%	27.2%	20.1%	11.4%
散歩や運動をする	53.7%	64.7%	54.3%	81.1%
地域の活動に参加する	19.6%	33.3%	39.1%	33.4%
気持ちをなるべく明るく持つ	39.5%	67.9%	71.7%	55.9%
趣味を持つ	40.5%	52.4%	47.2%	54.4%
なるべく外出する	31.7%	55.4%	17.2%	61.3%
特に心がけていることはない	4.6%	2.1%	1.8%	1.2%

（選択肢「その他」「無回答」を省略）

#### 5. 生きがい

図表7の生きがいに関する設問（Q37）の中でボランティア活動にかかわる項目を見ると、日本では他国に比べて「社会奉仕や地域活動をしている時」（日本 8.6%、アメリカ 28.8%、ドイツ 16.9%、スウェーデン 38.7%）、「他人から感謝された時」（日本 14.3%、アメリカ 45.3%、ドイツ 44.3%、スウェーデン 57.0%）が顕著に少ない。また、ボランティア活動に間接的に関係する項目として、日本では「若い世代と交流している時」（日本 9.5%、アメリカ 38.4%、ドイツ 22.1%、スウェーデン 42.8%）の割合も低い。

図表7  
Q37 あなたが生きがい（生きていることの喜びや楽しみを実感すること）を感じるのはどのような時ですか。（〇はいくつでも）

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
仕事にうちこんでいる時	19.5%	29.9%	17.6%	29.5%
勉強や教養などに身をいれている時	8.9%	13.8%	10.3%	6.7%
趣味に熱中している時	42.7%	43.0%	47.1%	46.6%
スポーツに熱中している時	15.5%	10.6%	18.1%	28.8%
夫婦団らんの時	25.9%	38.0%	40.3%	50.9%
子供や孫など家族との団らんの時	46.9%	68.7%	69.4%	79.2%
友人や知人と食事、雑談している時	38.5%	58.5%	56.3%	70.4%
テレビを見たり、ラジオを聞いている時	38.6%	44.6%	39.0%	46.3%
社会奉仕や地域活動をしている時	8.6%	28.8%	16.9%	38.7%
旅行に行っている時	36.1%	44.5%	54.0%	54.6%
他人から感謝された時	14.3%	45.3%	44.3%	57.0%
収入があった時	11.0%	26.9%	21.4%	21.7%
おいしい物を食べている時	41.3%	52.2%	54.7%	53.8%
若い世代と交流している時	9.5%	38.4%	22.1%	42.8%
おしゃれをする時	13.0%	26.4%	23.7%	25.5%
犬や猫などのペットと過ごす時	10.0%	30.2%	15.6%	21.3%

（選択肢「その他」「わからない」を省略）

## 6. 「望む施策」とボランティア活動

図表8の大切だと思う政策や支援の中でボランティア活動にかかわる項目を見ると、日本では他国に比べて「ボランティア活動のための場の確保」（日本8.9%、アメリカ50.8%、ドイツ20.6%、スウェーデン43.0%）が顕著に少ない。また、ボランティア活動に間接的に関係する項目として、日本では「学習のための場の確保」（日本8.4%、アメリカ47.8%、ドイツ14.5%、スウェーデン25.5%）の割合も際立って低い。

図表8  
Q40 あなたが大切だと思う、高齢者に対する政策や支援はどれですか。（〇はいくつでも）

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
働く場の確保	22.6%	59.1%	23.3%	46.6%
公的な年金制度	56.0%	79.9%	65.0%	71.5%
老後のための個人的な財産形成の支援	12.8%	60.9%	32.0%	36.7%
医療サービス	51.9%	79.1%	42.0%	70.0%
介護や福祉サービス	54.7%	66.5%	51.2%	70.5%
ボランティア活動のための場の確保	8.9%	50.8%	20.6%	43.0%
学習のための場の確保	8.4%	47.8%	14.5%	25.5%
高齢者向けの住宅	18.8%	65.2%	34.5%	62.7%
高齢者に配慮した街づくり	25.2%	53.4%	32.3%	44.4%
事故や犯罪防止（財産目当ての犯罪等）	17.9%	51.3%	31.3%	55.0%
高齢者の人権について一般市民の理解の促進	13.7%	54.5%	28.8%	41.0%

（選択肢「その他」「無回答」を省略）

## 7. まとめ

高齢社会対策大綱<sup>1</sup>では、「意欲と能力のある高齢者には社会の支え手となってもらうと同時に、支えが必要となった時には、周囲の支えにより自立し、人間らしく生活できる尊厳のある超高齢社会を実現させていく必要がある」と述べられている。超高齢社会を活力のある社会とするために、高齢者はその能力を発揮して社会に参加して自らの自立的な生活を維持するとともに、支え

が必要となった人々の自立を支援する社会貢献活動に積極的に参加することが望まれている。

今回「第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」の結果から、高齢者による社会参加、社会貢献活動にかかわる部分を見る中でポイントと思われるところを整理する。

ボランティア活動への参加状況はそれぞれの国の文化や社会のあり方によって重点が異なっており、また性別、年代別にもそれぞれに差異がある。そのため一概にボランティアはこのようにあるべきであると述べることは難しく、それぞれの国にふさわしい活動が活発化していくことが望ましい。ただし、日本では「近隣の公園や通りなどの清掃等の美化活動」（14.8%）は多いが「高齢者や障害者の話し相手や身の回りの世話」（3.8%）や「自分の趣味や技能などを活かした支援活動」（5.0%）は少ない（図表1）。これについては、高齢者が高齢者を支援することの重要性という観点からも、また市民自身による地域づくりという観点からもさらに社会活動が活発になることが望まれる。

また、日本においてはボランティア活動が大きな時間的および精神的負担を伴うものであるというイメージがあるように思われる。そのために、参加できない理由として「時間的・精神的ゆとりがない」（28.6%）との回答が多いという結果に表れているようにボランティア活動への参加を躊躇する傾向もうかがえる（図表5）。本来ボランティア活動は自分の意思によって自分のペースで無理のないように行われるべきであることがより広く認識される必要がある。

さらに、日本においては社会貢献活動が心身の健康のためによい影響を与えるとの研究成果<sup>ii</sup>が十分に社会に浸透していない可能性がある。高齢者にとって「地域の活動に参加すること」が健康のために好ましく、「社会奉仕や地域活動をしている時」は生きがいに通じているものである。この、ボランティア活動は自分自身の生活の質を向上させるとの理解が、ボランティア活動を行っている高齢者自身、団体、そしてそれを支援する行政の協働によってさらに広く浸透させていくことが重要である。

---

<sup>i</sup> 高齢者社会対策大綱：平成24年9月7日閣議決定。政府が推進すべき基本的かつ総合的な高齢社会対策の指針として定めた大綱。

<sup>ii</sup> 柴田博、杉原陽子、杉澤秀博 2012、中・高年齢日本人における社会貢献活動の規定要因と心身のウェルビーイングに与える影響：2つの代表性のあるパネルの縦断的分析、応用老年学、Vol.6, No.1, 日本応用老年学会